●山本署長の出張　山本高崎署長は事務視察の爲め昨日[illegible]本庄町へ出張せり

●隔離所巡視　高崎署の横山警部は昨日室田町地方へ出張し同地方に於ける隔離所を巡視せり

●種牡馬購入　群馬高崎聯合產牛馬組合に於ては今回金千二百圓を投じて種牡馬を購入する筈なり

●果樹剪定指導　本縣農事試驗場井上技手は[illegible]郡[illegible]村へ出張し同村[illegible]定地指導を爲す筈なり

●川村氏の送別會　邑樂郡大箇野尋常高等小學校長より碓氷郡安中尋常高等小學校長に榮轉したる爲め郡內有志者は館林町館林館に盛大なる送別會は開かる

●大箇野校同窓會　去る七日大箇野校同窓會の臨時會を館林町楡屋に開き重要案件を議了し川村支部長碓氷郡に轉任に付其後任に全會一致を以て飯塚慶次郎氏を推薦す

●[illegible]　[illegible]郡[illegible]村[illegible]

[illegible]七日其筋より就職を認可されたる邑樂郡[illegible]江田村長荒川長十氏は六日辭職せり

●圖書館の開館式　多野郡神川村の凱旋紀念圖書館は昨年七月の創立にして公立圖書館は本縣に於ける嚆矢なるが本日[illegible]知事代理として澤口學務[illegible]屬臨場の爲め出張せり

●清雅會の陳列　高崎清雅會にては來十五日本町成田山に於て盆栽陳列會を開く筈

●裁縫女學校の展覽會　高崎市柳川町佐[illegible]裁縫女學校にては十三四の兩日午前九時より生徒成績品展覽會を開く

●下賜の銀盃到着　愛國婦人會群馬支部高崎市幹事部及同群馬郡幹部へ賞勳局より下賜せられたる三十七八年戰役の功勞に對する銀盃は一昨日各幹事部へ到着せしと

●記章受領者不明　元北甘樂郡小幡村大字下仁田村五十四番地住居朝倉啓吉氏は明治三十七八年戰役中日本赤十字社救護員として從軍したるを以て曩に從軍記章を授與されたるも現住所不明の爲め傳達取計ひ難き爲め現住所取調べ方を本縣支部へ依頼す

●郡費補助認可　去る二十六日北甘樂郡長より其筋へ稟請にかゝる同郡々費補助の件は一昨日認可さる

●畜牛檢查　本縣畜牛結核豫防委員は昨日高崎市へ出張し同市末廣町早川牛乳店の畜牛檢查を行ひたり

●榮吉の廢業　高崎花柳貸家の榮吉は一昨日限り廢業

●高崎法衙の言渡　一昨日の分左の如し

○同署窃盜佐藤瀧五郎森林窃盜懲役一月○同上窃盜堀口三代吉同六月○同上賭博田中市平○田島仙吉○佐藤登市○篠原幸三郎○田島蔦吉○大坂いゑ各罰金八十圓

●僞名で拘引　市內桑町十四番地印判職畑田榮造（二八）は一昨夜何處にて大醉せしか午前一時三十分頃曲輪町派出所へ出頭して何か變つた事はないか僕は警察本部に勤めて居る長谷川だと愚にも附かぬ事を並べ立てたるが同職巡查の取調べに依りて僞名なる事判明し直ちに本署へ引致さる

●高崎市參事會　昨日午後一時より開會し四十二年度歲入出總豫算を審查せり

●世界無錢探險記

上海よりの第二通信

世界無錢探險旅行家矢島保治郎氏の第二信は三月三日付上海より來る、上海の滯在二十日間にして北京に向ふ豫定なりとあり、尙ほ記者に對する書信中在鄕學知諸君に余の健在を報ぜられたしとあれば茲に付記す

明治四十二年二月三日新橋停車塲出發、プラットホームにて都下新聞記者の來訪を受く、横濱著數流の旗に送られて徒步棧橋に繋留讃岐丸に乘船時に午前十一時三十分、船上にて福島縣綴驛在勤竹馬の友田口應吉君の祝電を手にす、船室に背囊携帶品を置き便所に赴く途中又も新聞記者の擒となり吶辯の僕大に窮す、旋て送者去り獨り甲板上に取殘さる、船は錨を拔きて進行を開始す

▲外人の見送　陸の方を眺めて居ると何か口を開いたり閉いだりして居る風が見ゆる、之れ送者の發する萬歲の聲かと、帽子と羽二重の襟卷を兩手にして信號を通づるや、陸上でもハンカチーフや帽子、旗などを打振りながら之れに應ずる、此時機橋の尖端に直進し來つて熱心に帽子を振る背の高い處から外人らしい、而も余の上下する帽子や襟卷に應じて丁寧に應答して呉れる、夫れも暫時船の進むに從つて人も帽子もハンカチーフも見えず、甲板上に立てるは只だ一人の保治郎あるのみ

▲感慨轉た無量　人の顏が見ゑて話が出來る、話が出來ずなつて信號が解かる、人影もなく話も聞ゑず信號も出來なくなり只だ一人の存在と變つた時の感や如何に？只だ何んとなく涙酌んで來る、之れ婦女子の愛に對する戀にあらず、前途の苦難を思ふてにあらず、同行者二名が初志を中折した其心の男らしからざると、鄕里に在ます老父母の身の上を思ふてなり、されど余はかゝる事に長く心を勞すにあらず、記者足下、余の前途には只だ親と國と進んでは世界あるのみ、今やこの甲板上に立つて余が出發の當時の如く父母も健全、國も無事、諸兄の上には祝福あらん事を天に向つて祈るの自由を與へられよ

▲食堂で矢島式　祈り終つて食堂に入る、余は未だ多數と西洋料理の會食をした事はない、余は二人の獨逸婦人と三名の醫學留學生との間に着く、數種の洋食何んなく平らげて室に歸る、日沒して遠州灘に差懸る、この日風浪荒く船中には大分飲まずに醉ひたる人あり、醫者生先等すべて惱さるゝも余は平然自若、夕食に備へた皿も悉く食ひ盡して元氣旺盛、六時間遲れて無事神戶に入港す

（讃岐丸は二日間神戶に滯泊、上陸して友人を訪ひ又た[illegible]公園に遊ぶ、歸船の際貨物運のランチに乘込んで物笑ひの種子を殘す、六日正午十二時神戶出帆、七日午前十時門司に着す）

▲婦女子の勢力　門司は日露戰爭の當時[illegible]したる處で甚だ懷しい、十時三十分上陸市中を見物す、白雪霏々として降り稍や寒さを覺ゆ、市街は道路狹く美ならず行く〳〵貸家の張札あり「當今の門司は不景氣だ」といふ、午後一時歸船、甲板上から石炭の積込を見て居ると、戰塲で土を土囊に入れて堡壘に運搬する樣が思ひ出される、茲に不思議な話がある百數十の石炭積込人夫中に妙齡の婦女子が男子の勞働を助るに多大の功あり、必ず數名の女が混じて居るのを見受ける、若し年頃の女が混じ居ないと一時間で出來る仕事が二時間も三時間もかゝると云ふ、底で、戰爭にも勇猛なる將卒の間に婦女子を加へたらば日露戰爭當時以上に士卒の志氣が揚り必勝を期する事が出來やう、となど空想を描きつゝ八日正午十二時門司出帆、愈よ日本の國土と別る

▲關稅吏戰慄す　日本海の水道浪穩かに玄海も黃海も無事に上海到著、上陸の際稅關の嚴重なる事甚敷い、革命黨の出入を嚴に取締る爲めだといふ、彼れ稅關吏は余の勇壯なる服裝と雜囊に記す『The world is my home（世界は我家也）』の文字を見て一驚を喫し更らに英文で記した世界無錢旅行探險隊の文字を見て更らに驚き一言にして通過を許した、之れ余の冒險第一著手の成功である、今後二十日程上海に滯在し準備を整へて支那大陸の横縱斷を試む、活動は愈よ之れからである

記者曰く、矢島氏に送らるゝ書信は只今は上海日本郵便局留置、其後は北京日本郵便局留置で出せば屆きます

●下賜金を叔父が遣ふ

群馬郡金古町養蠶敎師深堀龍次郎は步兵の[illegible]なりしが三十七八年戰役の際三十七年[illegible]月召集され出征したるが病氣の爲め一度[illegible]還し全治後再び出征したるに又々疾病の爲めに歸還を命ぜられ歸還後は兵役を免除され自宅に於て治療中三十八年三月疾病原因となりて死亡せしより同人の妻れい（二〇）は離籍せられ吾妻郡原町なる原籍地に當時二歲なりし龍次郎の長男滿（六つ）を連れ歸宅し居たるに其後に至り四十年四月付を以て龍次郎に對し三十七八年戰役の功により金百十圓を下賜せられ長男滿受取るべきにも拘はらず龍次郎の實兄幸三郎（四五）が滿の後見人となり居りて之を受取り悉く費消したるをれいくは更に知らず此程に至り其名義が滿となり居るより該下賜金を保管し置かんとて幸三郎に掛合ひしに龍次郎が病氣中費用を立替へたるを以て自分が皆受取り費消したりとの事にれいも大に呆れ然らばせめて半金なりと滿に渡されたしと迫りしも幸三郎は更に相手にならざるより當時證人となりし同町田島[illegible]太郎及國府村字北原加藤安太郎の兩人を間に立て談判せしも更に應ずる樣子なきよりれいくは一昨日高崎區裁判所、辯護士、群[illegible]郡役所等を訪問して其事情を訴へたるより同情者ありて種々方針を授けられしより辯護士に依賴し悴滿の名を以て叔父幸三[illegible]に對し下賜金引渡しの催告を爲したりと

●村民大會委員の陳狀

塚澤村の村長不信認問題

[illegible]郡塚澤村堀越重太郎同天田角次郎外數名は村民大會委員として過般村民大會を開き各大字に一名の委員を選定して村長不信認を決議したる由は既記の通りなるが大會委員堀越[illegible]二氏外九名は昨日午前九時群馬郡役所に押しかけ橋本郡長の出勤を待つて縷々塚澤村長等の不始末を陳情に及びたるが陳情の要旨は村長が役塲の金庫盜難事件を明瞭に村民に報告せざる事と小學校增築に就て敷地を變更したるは不都合なりと云ふにあれ共右は村長の獨斷にて決行せしにあらず村會議員及建築委員等と協議の上實行したる次第又金庫盜難の件は未だ充分なる調查行屆かざりし結果報告が延期したるなりと云へばいづれ圓滿に解決を結ぶ[illegible]しと

●新聞記事人を救ふ

地獄で佛さ只だ感涙に咽ぶのみ

一日發行の本紙に吾妻郡應桑村の赤貧[illegible]藤市藏が老衰して書くも悲慘の境遇にその記事に感動し市內細ケ澤町四十三番地片野久太郎と云へる篤志者は金五圓を[illegible]原分署長に托して同人に惠送したれば六日本人市藏を召喚して富岡分署長は[illegible]を說き聞かせて金圓を手渡したるに同人は震慄して驚き由緣もなき御仁にかゝる大金を惠まるゝは地獄で佛に遭ひしが如しと感涙に咽び再生の恩を謝して歸宅し其旨駐在巡查の許へ申出でたれば村民も片野氏の慈善心に感奮し夫々救助の道を講じさせつゝあり此報一度世に傳はるや吾妻牧塲の淺井氏は金品を惠み來り尙其他にも同情者多しと德孤ならず必らず隣あり片野氏の仁俠は多數者の肺腑を刺衝して此の憐れむべき老翁を救ふに至る感ずべきなり

●農業學校の擊劍大會

三日の節句を卜して同校に開會す

縣立農業學校にては例年の通り去る三日の節句を卜して百餘の健兒が日頃練磨せる技量の程を試みんとて擊劍大會を開きたるが先づ各年級の試合あり次いで來賓と同校生徒の試合最も華々しく何れも同校生徒の修練深きに恐入つたりとなり當日の勝負如左

▲三學年（○は勝△は引分）

△（唐澤新次郎　奥木文四郎）○○（加藤愼三　藤川武雄）○○（松井實　佐藤文六）○○（關口與重　湯本光司）○○（吉澤[illegible]　横山[illegible]）○○（都丸洋三　[illegible]文平）○○（內田武吉　高橋林十郎）

欠（三木巴　新井太郎）○○（石坂丑藏　松井實）○○（原田代太郎　坂口克三）○○（竹田邦三郎　狩野三郎）○○（鈴木與平　飯野[illegible]藏）○○（吉澤[illegible]　片[illegible]）△（森川長二　今井[illegible]）

○○（丸岡鋼兵太　橋爪直三郎）○○（內田武吉　森川辰二）欠（佐藤吉太郎　市根井九八）欠（柳田昌八　星野[illegible]）○○（福島[illegible]　中島六造）○○（角田平八　鹽原逸五郎）○○（龜井門三郎　高橋劍太郎）

▲本學生徒と來客劍士　向て右方は生徒左方は來客

○○（後藤和三郎　今泉勘作）○○（田中逸郎　山田大太郎）○○（岩崎喜一　湯淺喜久馬）○○（龜井門三郎　町田善藏）○○（中澤濟　今泉英樹）（農業助手）△（田村信夫　鄕田久作）○○（松井金之助　山田茂一）

尙ほ全生徒の一本勝負五人拔は松井金之助、來客劍士と全生徒の一本勝負三人拔は生徒龜井門三郎、同松井金之助、來客町田善藏、同山田茂一の諸氏なり

●赤城根附近雪中行軍

急流を徒涉し峻坂を攀づ

步兵第十五聯隊混成中隊二百五十名は指揮官景山少佐演習中隊長築山大尉尾城一等軍醫外將校八名豫期の如く四日沼田町を發し午前十一時半赤城根村字南鄕に著し約一時間の休憩を爲せり赤城根軍友會員は歡迎の爲め東小學校に休憩所を設備し兵士を優待し將校は郡會議長鈴木氏方に休憩し晝食をなし零時半根利村に向つて出發したり途上積雪二尺餘道路頗る險惡なる坂路を軍靴を穿ちたるまゝ跋涉するも一名の落伍者を見ず意氣奮然本道を避けて大字小松村へ迂回し根利川に添ふて前進し丸太橋を渡りて本道に移りしも一の落橋者なかりしは平素に於ける丸木渡りの練習宜しきが爲めなるべし一兵士は後に微笑して曰く今日は面白き滑稽を爲したりと景山少佐柳澤副官の乘馬は河水を越えしが此地は古今牛馬の通行せざる難所にして一步誤る時は千尋の谷に墜落する危險あり馬丁二名と應援兵出でゝ之れを果す積雪は馬の腹部に達し日沒根利村に著せり兵士一隊は五時半安著し字今角村舍に於て約一時間雪中露營作業を終り七時宿舍に著く大隊本部は奇應丸本舖中隊本部は丸石屋方なり同夜兵士慰問として赤城根村より酒を贈りしに一同大滿足を爲し五日午前七時整列し勢多郡黑保根村を經て大間々方面に出發せり同地方に於ては始めてのことゝて村民は非常に歡喜して一行を厚遇せりと云ふ（六日赤城根發）

旅館　前橋市桑町　電話百七番　住吉屋

●へボ義太の流行

七面鳥の夫婦喧嘩か豚が喘息を患ふたか乃至は黴毒婆さんが〆め殺されさうな聲を出して無暗矢鱈にごなり立てるへボ義太夫の流行る此頃一寸招かれてもチヤホヤと待遇さるゝより大体藝の物に成つて居らぬにもかゝわらず三味線をかつぎ廻つて市內は勿論伊勢崎又は近在と狼有志の招待に此上なき天祐と有り難がつて出かける細ケ澤のれぬいちやん連地体段數の無い上に製糸工塲の氣笛にも合ひさうもない自動車の喇叭聲を絞り出して義太りイヨ待つてましたナニ實はれ了いになるのをなんぞ云はれても一向に頓着なく天つ晴れた師匠然と澄して、御座るが今の內から日錢を取つてれ白粉代にする事など覺へずにミツシリと稽古でもして藝術の眞聖を保つ方が子孫代々の爲めにも宜しからふ

●妙な拾ひもの

市內連雀町鐵葉職村山勝太郎方雇人浦野友市（二六）は九日午前九時同町通りにて縮緬甲斐絹裏附の前掛一掛とネルの腰卷及び寫眞三枚を拾ひて其筋へ屆出でたるが其寫眞には年齡三十一二の小意氣なた內儀さんが六つ位の可愛らしい男の子の手を曳きたるが撮影しあり

●三ヶ町春雨傘

昨日新看板を掲げたる瓢家方より豐次（二二）君子（十四）と云ふ二人の新妓が現はれた豐次姐さんは東京本鄕區丸山新町十番地三木きん君ちやんは市內岩神村觀民小路川崎入造と云ふ士族の娘で父がれ定まりの商法の失敗から些の間ちや辛棒してくりやれ、又鈴木屋方から福壽と名乘つて披露目したは元の勢見屋の二代目寶で澁川から大胡へ住替へ美濃屋から登喜代と云ふ名で先月まで稼いで居たが能い鴨もかゝらぬ處より元の古巢へ舞戾りしもの、で其昔は有名なりし細ケ澤町座繰久の娘

●高崎花柳便り

大類の爲さんと浮名を流し廢業ころせぬが嘉多町の自宅に引籠つて居た中倉の小柳は近日表面丈け爲さんと[illegible]

●足利織物市塲（十日安合）

本市は兎も角も本季節に入りたることゝて雨天ならざりせば隨分活氣ある取引を見るならんと期待したるに雨天の爲め幾分人氣を挫かれたり而し相應に取引出來し客筋は京坂名古屋東京及地廻り等を合して卅二三名出來高も前市に比し幾分多し相塲は前市同樣ながら氣配は伸力に少き折柄とて幾分安含みを免れざりし

	御召	同絹立紋	同養老御召	縞縮緬
上	八、〇〇〇	七、五〇〇	五、〇〇〇	三、五〇〇
中	七、〇〇〇	六、二〇〇	四、八〇〇	三、〇〇〇
下	六、五〇〇	三、八〇〇	四、五〇〇	[illegible]

	風織〆切（疋）	伏絲筋物（疋）	好評紬	同中紬
上	六、一〇〇	五、五〇〇	三、〇〇〇	三、四〇〇
中	五、五〇〇	四、四〇〇	二、五〇〇	二、二〇〇
下	四、八〇〇	四、〇〇〇	一、九五〇	二、〇〇〇

好評筋物　同大絣〆切　秩父縞（疋）　黑絣生機　[illegible]

商況

關係を絕つた事にして再びお座敷へ出現する事となつた、寶家と初音家から近々若い妓が又出現するとの事だ、玉蔦家の小蝶は例の旦那が江戶から歸つて來たので蔦旭と云ふ御神燈を吊して自前になつた、寄留宿若藤は寶來家のあとへ兩三日前移轉した、三業見番では相談の結果高崎八景の名物踊を作る事となつて東京の或大家へ作歌と振り付けを依賴した共進會迄に間に合すと

高崎生絹市塲（十日保合）

本市は前市に比して千五六百疋[illegible]相塲は[illegible]變りなく氣配も漸次製產增加に[illegible]

小節　上　四圓三十錢　中　三圓三十錢　下　二圓六十錢

[illegible]

登記公告

産業組合登記簿第五號
[illegible]

登記簿第拾九號
富岡區裁判所

登記簿第拾參號
前橋區裁判所

沼田區裁判所

生徒募集廣告
群馬縣立前橋中學校
第一學年
出願期日
[illegible]

院長　山下理作
外科
黴毒科
泌尿生殖器科
山下外科病院

廣告
織物整理業
岡村喜平
安藤與吉

りん病
[illegible]

●天氣豫報
[illegible]北乃至西ノ風　雨又ハ雪後晴　曇

この印刷物の文章・写真等の著作権は上毛新聞社が保持しています。無断転載、複製及び頒布は禁止します。